参考資料①　消防隊員の服と重さ

消防隊員の日常の服装（作業着）は，仕事内容によって色が分けられています。普通の消防士は青色の服を，特殊な救助を行うレスキュー隊員はオレンジ色の服を，救急隊員は白い服を着ています。

火災時には，作業着の上から防火衣を着ます。防火衣は，耐熱性・防炎性・防水性にすぐれた繊維でできています。防火衣の重さは，5 kg あります。火は熱いですが，防火衣は 1200 度の火災に 40 秒以上燃えなかったという実験結果があるそうです。防火衣は，普段，消防ポンプ自動車のそばに各自の保管場所があります。すぐに着て出動するため，着やすいように整頓されています。

火災現場では，ガスマスクなどの装備も装着するため，全部で 15 kg くらいになります。さらに，ホース 1 本が 8 kg あり，放水時には，水の勢いで後ろへ引っ張られる状態になることから，かなりの重さに耐えることが必要となります。そのため，毎日体を鍛えることが大切です。また，人が複数いれば，数人で放水するようにしています。

防火衣のロッカー

すばやく着られるように工夫

参考資料②　通信指令室の役割

通信指令室は，119 番通報を受けると，通報内容から火災や救急などの種別を判定し，通報された位置や目標物から災害地点を決定して，状況に応じた部隊の出動指令を出すところです。通報が一般電話の場合，通報から 60 秒で正確な位置を特定できます。携帯電話からの通報だと特定までに 90 秒かかります。また，携帯電話にＧＰＳ機能がついている場合は正確な位置が特定できますが，ＧＰＳ機能がついていない場合は，4 km 以内の円でしか場所が特定できないため，目標物の連絡もすることが大切です。

通信指令室前方には車両運用表示盤があり，岡崎市内にあるすべての消防自動車や救急車の状態が分かるようになっています。出動部隊の編成は，災害状況に応じて自動的に編成されますが，応援が必要なときなどには，この表示盤を見ながら指示を出すことができます。また，水道局やガス会社などの関係諸機関へは，指令室のボタン 1 つで協力の要請が届くようになっています。

これまで消防本部にあった通信指令室は，市役所東庁舎の完成にともない，東庁舎 7 階に移転しました。移転理由としては，通信指令システムの充実だけでなく，大規模災害時には災害対策本部（東庁舎 2 階に設置される）と円滑に連携していくためです。

災害時には，通信指令室の 100 インチ大型プロジェクターで，指揮指令車に搭載したカメラで撮影されている災害現場の動画をリアルタイムで見ることができます。この動画は，消防指揮本部や災害対策本部にも送られるので，正確な情報伝達とともに，迅速な対応が行えます。

車両運用表示盤

通信指令室の様子

出動指令用機器

参考資料③　消防署と消防団の違い

消防団は，「自分たちの町は自分たちで守ろう」という自治意識から行っている活動です。それゆえ，本来は異なる仕事をもちながらも，災害時には出動し，災害救助のプロである消防隊員と協力をして消火活動や災害救助にあたります。

主な消火活動は消防隊員が行います。消防団の主な仕事としては，火災時の交通整理や簡単な消火活動，消防隊員の手助け（ポンプやモーターの補充など），消火後の管理などです。また，その地域の状態をよく把握しており，状況に応じたよりよい対応ができ，災害時の大きな力となっています。